

英国図書館研修報告

とも の し ほ
友野 詩穂
(三田メディアセンター)

1 はじめに

2018年9月から12月にかけての3か月間、英国ノリッジにある、セインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館を拠点とした海外研修の機会を得た。メディアセンターの本研修は2012年から開始され、筆者は7人目となる。今回の研修では、同図書館で日本語の資料を整理したり、研究所主催の日本芸術・文化に関するレクチャーやセミナー、ワークショップに参加したりと数多くの経験をさせて頂いた。それらの活動とともに、教育支援と蔵書管理（電子コンテンツ）について、慶應義塾大学にとって参考になる先進的な取り組みを行っている英国の大学を訪れ、その経緯や利用者の反応そして業務の実情について、担当者にお話を伺った。他にも英国とフランスの日本研究図書館への訪問や会議への出席により、海外で日本研究を行っている学生や研究員に対するサービスの現況や問題点について、見聞を深めることができた。研修・訪問先と日程は表1の通りである。

表1 研修・訪問先と日程

日程	訪問・滞在先
下記以外の期間	セインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館
9/18	英国着
10/4	ケンブリッジ大学図書館
10/19	イースト・アングリア大学図書館 ロバート・セインズベリー図書館
11/6, 26-27, 29	大英図書館
11/7	日本国大使館広報文化センター図書館 Japan Library Group (JLG) 会議
11/8	大英博物館
11/28	ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院図書館
11/30	英国立芸術図書館
12/3	NACIRA Conference
12/4	フランス国立図書館フランソワ・ミッテラン館 大学間共同利用言語・文化図書館 (BULAC)
12/5	コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所図書館 フランス国立極東学院図書館
12/22	帰国

筆者がレファレンスから選書（テクニカルサービス）という職務経歴であることを踏まえ、本報告では、オンライン・リーディングリスト・システムについての調査を例に、英国の教育支援を中心に記述する。

2 教育支援ツールとしてのオンライン・リーディングリスト・システム

リーディングリストとは、大学で学期始めに教員から配付される「必読書リスト」「推薦図書リスト」のことである¹⁾。英国の大学では、図書館OPACとリンクした、オンライン利用が可能なリーディングリスト・システムを備えていることがよくある。図書館の中で専任担当者が割り当てられ、教職員・学生に意欲的に宣伝し活用している大学も数多くある。

(1) 慶應では

授業で使用する教科書や参考資料をリストにして、「シラバス・時間割Web検索システム」²⁾に掲載したり、授業内で配付したりすることは慶應でも一般的である。しかし、それらの授業に必要な参考資料を入手するには、図書館のOPACで再度検索しなければならない。まだ検索スキルが十分に身につけてない新生が、膨大な所蔵資料の中から欲しい資料にたどり着くのはかなり難しい。

また図書館では、学生部から提出されるシラバスのExcelデータをもとに、資料の所蔵調査を行っているが、記載されている書誌事項が正確でないことも多く、絶版のものや、逆に未刊のものが含まれていることもあり、毎年難儀している。

(2) オンライン・リーディングリスト・システムとは

リーディングリストをオンラインで管理し、学生に公開するのがオンライン・リーディングリスト・システムである。印刷資料の場合は「書誌情報」や「図書館での所蔵情報」が、電子資料の場合は「電子ブック・電子ジャーナルの利用可能状況」や「印刷資料のスキャン画像」、「Webでのオープンアクセス情報」

がリストに掲載され、必要な資料に簡単にアクセスすることができる。また大部分は、BlackboardやMoodleなどのラーニング・マネジメント・システム³⁾からもアクセスでき、学生は授業科目の内容や成績評価方法と教科書・参考資料という必要な情報を、全てまとめて入手することができる。

今回訪問しインタビューを行った図書館は、イースト・アングリア大学図書館（以下「UEA」とする）とケンブリッジ大学図書館の2館で、いずれもオンライン・リーディングリストのための商用システムを取り入れていた。

3 オンライン・リーディングリストに関しての調査

本調査では、主に以下の項目について話を伺った。

- ・システムの概略（導入時期、全授業に対する登録授業数の比率、ベンダー等）
- ・サービス広報のための宣伝活動の内容

両大学とも様々な取り組みを行い、このサービスを広めようとしている印象を受けた。慶應でも似たような状況に見えるが、たいいてい教員は自身の教育研究活動で多忙である。図書館側からの求めで新しい試みに着手してもらおうにも、それなりに負荷がかかるため、浸透させるのは容易ではない。両大学ともこの数年内にオンライン・リーディングリストを取り入れたため、導入直後の困難や、それを克服するまでの道のりについて、担当者から貴重な体験談を聞くことができた。

以下では、対象大学ごとの調査の具体的な内容を説明する。

(1) UEA

〔創立年〕1963年〔学生数〕15,058名（うち学部生10,919名）⁴⁾〔教職員数〕3,708名（うち教員986名）⁵⁾〔システムの概略〕

UEAでは、英国のTalis社が提供するTalis Aspireというシステムを採用している。2019年7月現在、全世界で105の大学組織等が導入している⁶⁾。Talis社の柔軟な対応がこのシステム採用の決め手となったそうだ。実際、図書館のディスカバリーシステム（EBSCO）とも、非常にスムーズに連動していた。

教員は自分でシステムにログインして、リーディ

ングリストを作成することができる。開講期間中でも追加・再構成が可能である（図書館員がリスト作成を代行するサービスは提供していない）。またリーディングリストそのものは誰でも自由に閲覧することができ、管理画面からは掲載コンテンツへのアクセス数を確認することもできる。

オンライン・リーディングリストの導入は2014年である。普段はReading List Administratorという職員1名が関係業務全般を担当しているが、学期始めのような繁忙期には、利用者へのトレーニング担当専門の職員が一時的に増える。大学としてもこのリーディングリスト事業を重視しており、近年予算が増額されたとのことである。2018/2019年度の全授業数に対するリーディングリスト登録授業数の比率は75%以上である（ただし、モジュールが複数あるため、正確な数をカウントするのは困難と思われる）。

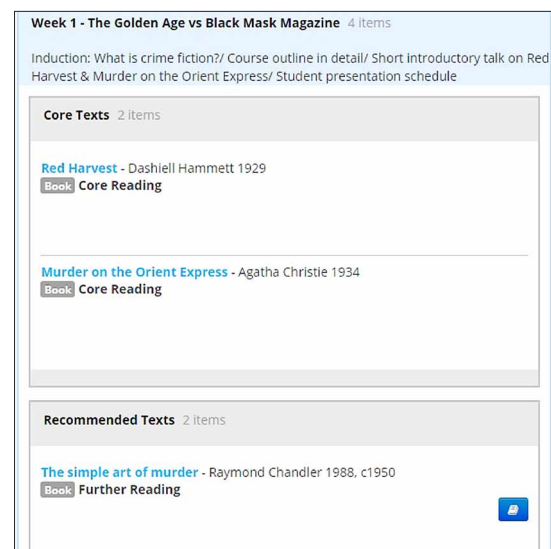


図1 一覧画面の例⁷⁾

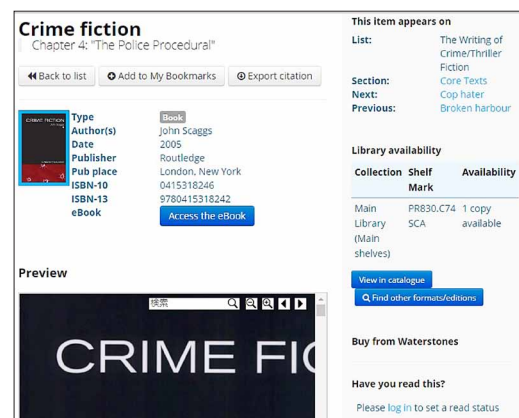


図2 個別画面の例⁸⁾

[宣伝活動]

オンライン・リーディングリストへの授業登録数は、初年度は約42%だった。登録比率の増加の要因としては、以下の3点が特に重要だと感じた。

- ・ユーザビリティ
- ・セミナー・ガイダンス等の積極的な実施
- ・教員間の口コミ

セミナー・ガイダンスについては、CTELという大学内の他部署（Center for Technology Enhanced Learning、慶應におけるITCに似ているが、より教育支援に特化した役割の部署）と連携して実施している。部署間の連携体制という点でも大変興味深い。

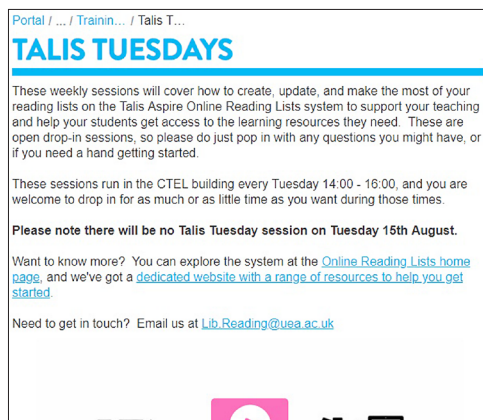


図3 セミナー案内ページ⁹⁾

また担当者は、「教員同士の口コミ・評判は強い影響力がある」と語っており、慶應と似たような状況に感じた。実際にTalisを活用している教員のコメントがWebで公開されており、同システムのどの機能を特に活用しているのか、それぞれ述べられている。

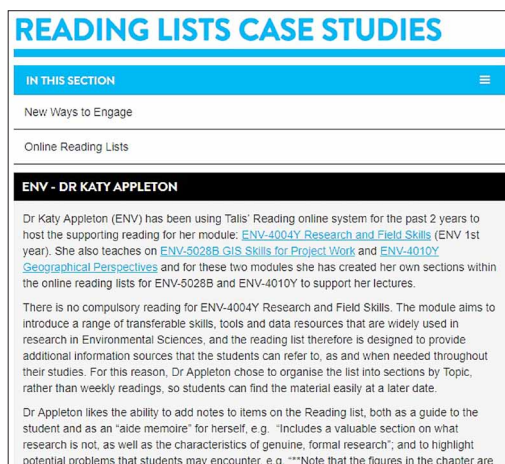


図4 教員から寄せられたコメント¹⁰⁾

(2) ケンブリッジ大学

[創立年] 1209年¹¹⁾ [学生数] 21,656名（うち学部生12,044名）¹²⁾ [教職員数] 11,528名（うち教員1,687名）¹³⁾

[システムの概略]

ケンブリッジ大学図書館では、Legantoというシステムを使用している。LegantoはExLibris社が提供するシステムで、米国のWashington State University, University of St. Thomas等が採用している¹⁴⁾。システムを取り入れたのは2018年10月からということなので、ちょうど筆者の訪問直前に導入されたことになる。現段階では教員が自分でリーディングリストを作成するのではなく、図書館が作業を担っているが、将来的には教員自身が作成できるようにしたいとのことだった。開始したばかりではあるが、オンライン・リーディングリストへの授業登録数は6～7割と高かった。ただし、リスト自体はまだ学外者が閲覧できる状態にない。

なお、ケンブリッジ大学図書館は2018年2月からEx Libris社の図書館システムAlmaとPrimoを導入しており、Almaとスムーズに連携できる同社のシステムを採用したとのことであった¹⁵⁾。

[宣伝活動]

各カレッジのサブジェクトライブラリアンがリーディングリストに関わる業務を全体的に支援している。サブジェクトライブラリアンと教員の連携が非常に密なため、導入直後にも関わらず高い利用率につながったと考えられる。これまではカレッジごとにリーディングリストが管理される傾向にあったが、業務効率化も見据え広く宣伝していきたい、とのことであった。

(3) 調査総括

筆者自身が、教科書・参考書の所蔵確認・管理に問題意識を持つ中で今回の調査に臨んだが、効率的なオンライン・リーディングリスト・システムは大変参考となるものだった。また、単に素晴らしいシステムを取り入れるだけではなく、①協力的な教員を見つけて、新たな広告塔になってもらう、②IT部署等、他部署の職員と連携協力できる体制を整えておく、③教員にも直接広報を行う、といった点も非常に勉強になった。慶應における導入は、すぐには難しいと思われるが、例えば学生部、ITCそして図書館といった各部署や、教員・学生それぞれの立場の要望を聞きながら、情報を共有しつつ検討を進めること

で、業務効率化につながるのではないだろうか。

4 セインズベリー日本藝術研究所リサ・セインズベリー図書館

約3か月の研修中、他機関を訪問していない期間
はリサ・セインズベリー図書館において寄贈雑誌の
整理作業を担当した。リサ・セインズベリー図書館
では、日本の美術館や地方公共団体、国立国会図
書館等から定期的に寄贈される雑誌を多数所蔵して
いる。未整理の雑誌約200タイトルを対象として、
Excelの雑誌受入リストに購読管理情報を記入する
ところから作業を始め、NACSIS-CAT、Alephへ
の書誌データ登録の後、資料をリサ・セインズベリ
ー図書館内およびセインズベリー日本藝術研究所内の
書庫に配架する作業まで行った。日本の美術関係、
考古学関係のタイトルが中心であったが、日本国内
の刊行資料を国外の日本研究図書館で、自身の手で
受け入れる作業は感慨深いものであった。また、中
世にタイムスリップしたかのようなノリッジで、静
かな雰囲気の中、資料を整理するという、またとな
い時間を過ごすことができた。



図5 リサ・セインズベリー図書館の窓から見た
二重の虹

5 終わりに

筆者は図書館に勤め始めて5年目で、今回の海外
研修に臨んだ。慶應のメディアセンターの現況が何
となくつかめてきた状態で、海外の事例に直接触れ
ることができ、大変新鮮な刺激を得ることができた。
各図書館を訪問する際は、現在携わっている業務の
課題等を意識して、事前に質問事項等を整理したが、
こうした問題意識は研修後も引き続き持ち続けてい
きたい。

最後に、今回の研修をご快諾くださり、ご指導頂
いたリサ・セインズベリー図書館の平野明氏、日本
藝術研究所並びに英仏両国各図書館の皆様のご親切
に対して深い謝意を表したい。また出発前や滞在中
にご助言を頂いたメディアセンターの皆様、そして
多忙な時期に送り出してくれた三田メディアセンター
選書担当の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げ
る。

注・参考文献

- 1) “read·ing”.小学館 ランダムハウス英和大辞典, JapanKnowledge,
<https://japanknowledge.com>, (参照 2019-07-20).
- 2) 慶應義塾大学 講義要綱・シラバス・時間割,
<https://gslbs.adst.keio.ac.jp/>, (参照 2019-07-21).
- 3) eラーニングなどで、学習者の成績や学習教材などを教
師が統合的に管理するためのシステム。学習者自身が自
分の学習の習熟度を把握できるほか、学習者同士または
学習者と教師の間でコミュニケーションを図るための電
子掲示板の機能をもつものなどがある。
“エル-エム-エス [LMS] [learning management system]”,
デジタル大辞泉, JapanKnowledge,
<https://japanknowledge.com>, (参照 2019-08-27)
- 4) Fast Facts - UEA,
<https://www.uea.ac.uk/about/media-room/facts>,
(accessed 2019-07-22).
- 5) “Staff numbers”. University of East Anglia Annual
Report 2012-13.
[https://www.uea.ac.uk/documents/3154295/3352666/
UEA+Annual+Report+2012-13/e4000fb5-8887-42f8-
96e7-8ec7c955e5a2](https://www.uea.ac.uk/documents/3154295/3352666/UEA+Annual+Report+2012-13/e4000fb5-8887-42f8-96e7-8ec7c955e5a2), (accessed 2019-07-22).
- 6) Talis - Talis Aspire,
<https://talis.com/talis-aspire/?q=/reading-lists/>,
(accessed 2019-07-22).
- 7) The Writing of Crime/Thriller Fiction | University of
East Anglia,
[https://uea.rl.talis.com/lists/14EADAE1-7BA4-9A52-
88FA-EC73437AFE95.html](https://uea.rl.talis.com/lists/14EADAE1-7BA4-9A52-88FA-EC73437AFE95.html), (accessed 2019-07-25).

- 8) Crime fiction | University of East Anglia,
<https://uea.rl.talis.com/items/6A10C3B7-C614-A075-E574-7CC1030FD9BA.html?referrer=%2Flists%2F14EADAE1-7BA4-9A52-88FA-EC73437AFE95.html%23item-6A10C3B7-C614-A075-E574-7CC1030FD9BA>, (accessed 2019-07-25).
- 9) Talis Tuesdays - UEA,
<https://portal.uea.ac.uk/learning-technology/centre-for-technology-enhanced-learning/talis-tuesdays>, (accessed 2019-07-25).
- 10) Reading Lists Case Studies - UEA,
<https://portal.uea.ac.uk/learning-technology/new-ways-to-engage/online-reading-lists/reading-lists-case-studies>, (accessed 2019-07-25).
- 11) Timeline | University of Cambridge,
<https://www.cam.ac.uk/about-the-university/history/timeline>, (accessed 2019-07-25).
- 12) Time series | Planning and Resource Allocation Office,
<https://www.prao.admin.cam.ac.uk/data-analysis-planning/student-numbers/time-series>, (accessed 2019-07-25).
- 13) Facts and Figures January 2018,
https://www.prao.admin.cam.ac.uk/files/facts_figures_2018_poster_for_web.pdf, (accessed 2019-07-25).
- 14) Customer Stories | View Customer Testimonials Case Studies | Ex Libris,
<https://www.exlibrisgroup.com/community/customers/?filter=Leganto>, (accessed 2019-07-25).
- 15) Cambridge University Libraries Go Live with Ex Libris Alma and Primo Solutions,
<https://www.exlibrisgroup.com/press-release/cambridge-university-libraries-go-live-ex-libris-alma-primo/>, (accessed 2019-07-25).